

『世界に誇る日本の「木の文化・木のおもてなし」を考える』 インバウンド促進・地方創生・地域材の需要拡大に向けて 公開座談会が開催されました



2月14日(金)神田明神 明神会館にて、建築家の隈研吾氏、(株)小西美術工藝社社長で文化財の修復等にも携わっておられるデービッド・アトキンソン氏、岐阜県立森林文化アカデミー学長の涌井史郎氏の3名をお招きし、標記テーマで公開座談会が開催されました。

近年のインバウンドの増加等を背景に、国内外への更なる木材利用の普及を図るため、林野庁では補助事業(実施:(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)を通じて、平成30年度から、日本が培ってきた「木の文化」とそれを活かした多様な「木のおもてなし」について主に来日観光客の視点から再評価をし、新たな形の「木の文化」と「木のおもてなし」を創造・発信する取組を進めています。

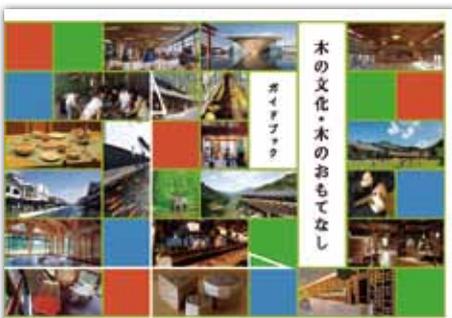
平成30年度には、全国各地の木の文化の事例を収集し紹介した「木の文化・木のおもてなしガイドブック」を制作し、地域材の価値を高めるだけでなく、観光やまちづくりに関する事業やサービス等への活用を目指し、地方自治体や旅行・観光事業者等への普及を行いました。

また、令和元年度には、ガイドブックの趣旨に沿う形で、4地域(秋田県大館市、岐阜県飛騨市・中津川市加子母、京都府)にて、地域内の林業・木材産業関係者と観光・まちづくり関係者等が連携し、地域

内に集積された「木の文化」を再整理・編集し、「木のおもてなし」を試行・体験するモデル的なワークショップやツアー等を実施しているところです。

本座談会は、この取組の一環として、当事業の検討委員も務めていただいている隈研吾氏、デービッド・アトキンソン氏、涌井史郎氏をお招きし、開催されました。木の文化を活かした木のおもてなしを通じたインバウンド促進や地方創生、地域材の需要拡大の可能性など幅広い視点から、熱い議論が交わされました。

座談会では、隈氏から、高知県梼原町や国立競技場などこれまで携わられた取組等における木との関わりをお話いただきつつ、「今、日本の建築は



木の文化・木のおもてなしガイドブック



大館市での試行的ツアーで曲げわっぱの製作を体験する参加者

変わりつつあって、特にレベルの高い部分で木に関する取組が増えてきている。需要が生まれ、いろいろな人が木を使うと新しい技術もついてくる。今後も多様な木の使い方が広がる可能性は大いにあり、悲観してはいない。」とコメントをいただきました。また、アトキンソン氏からは「多くの方々は、日本文化は素晴らしいと感じ、職人の技術に感動するが、それらを自らが買ったり使ったりしていないことは問題。日本人が買って使えば、失われつつ



涌井 史郎氏



隈 研吾氏



デービッド・アトキンソン氏

ある文化も自然に復活するのではないか。」といった問いかけや、「自身の町屋での暮らしのエピソードを交えながら「日本の暮らしの中にあつた豊かな季節感や文化は、暮らしに手間をかけなくなったことで失われつつある。インバウンドに向け情報発信をしても、そういった文化が一体どこに残っているのか疑問である。」と本質をつくコメントがありました。お話の最後には、「日本の文化は幅があつて奥が深い。実際に活用されていない。これは大きな損失である。文化を深く学び理解することから新しいアイデアが生まれるため、もっと深掘りをする事で、地方創生や経済成長で新しい道が拓くと思う。」とヒントをいただきました。最後に、涌井氏から、お二人の話を受けつつ、「日本人はシームレスな時間の流れや空間に価値を見出し、そこに非常に手間をかけ、文化的に表現してきた。デジタル社会や Society5.0^{*} は今後も進展を続けるだろうが、日本人として日本の気質みたいなものを十分に理解して、その上で木の文化等をプロモーションしていくことが大切。」と述べられました。

3名の言葉から、日本の「木の文化・木のおもてなし」を創造・発信するにあつた様々なヒントが得られただけでなく、私たちが木の文化をはじめ日本の文化にこれからどう向き合っていくのか、改めて考えさせられる良い機会になりました。

※Society5.0: サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初め掲げられた。J(出典:内閣府HP https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)



今回会場となったのは、神田明神

同敷地内の「神田明神文化交流館 EDOCCO」は、ウッドデザイン賞2019において特別賞「木のおもてなし賞」を受賞しています。神田明神が祀る平将門の伝説が多く残る多摩地域のスギ材を活用しており、空間は神社の荘厳さを継承しつつ、訪れた人々のコミュニケーションを促すデザインになっています。

公開座談会の第2部においては、この文化交流館の現地見学会と、文化交流館をデザインされた(株)乃村工藝社の坂爪研一氏、大西亮氏、ウッドデザイン賞審査委員の鈴木恵千代氏をお招きし、木を活用した魅力ある施設づくりについてお話いただく座談会も開催されました。第1部に引き続き第2部も多くのの方々にご参加いただきました。



神田明神文化交流館 EDOCCO



第2部の様子

当事業で制作された「木の文化・木のおもてなしガイドブック」等成果については、以下URLからご覧いただけます。 <http://www.green.or.jp/topics/omotenashi/>

